

ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹の高品質果粒生産のための1果（花）房当りの最適着葉数						
<p>[要約] ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹の満開期の1果（花）房当り葉数は16枚程度が、1粒重が重く、果皮色が良く、糖度が高く、収穫期も早く、収穫後の早期落葉も少なく、最適である。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成9年度 長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

ブドウ「巨峰」の果粒肥大、果皮色及び収穫期の早晩等に対して1果（花）房当りの葉数の影響が大きいと言われている。とくに、ウイルス無毒樹は樹体生育が旺盛で、1果（花）房に対する葉数が多い。そこで、ウイルス無毒樹の高品質果粒生産のために浜崎系ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹挿木苗4年生樹1区2樹を用い、満開期（5月18日）に1樹当りの新しょう数とその着葉数及び果（花）房数を調べ、1果（花）房当り8、12、16、20葉になるように摘房し、対照として無摘房の放任樹を設け、1果房当りの葉数と果粒品質、収穫期及び落葉期の早晩との関係などを検討した。

[成果の内容・特徴]

- ① 1果（花）房当りの葉数が増加するに従って、1粒重は重く、果皮色は向上し、糖度は高くなる。しかし、満開期の1果（花）房当りの葉数が20葉になると1粒重は16枚区に比べ軽く、果皮色は悪く、糖度は低くなる。果実品質のためには、満開期の1果（花）房当りの葉数は16枚程度が最良である（表1）。
- ② 1果（花）房の葉数が多くなるに従って、収穫盛期は早くなるが、満開期の1果（花）房当りの葉数が20枚区は16枚区に比べ遅くなる（表2）。
- ③ 1果（花）房当りの葉数が少ないほど、冬季のせん定時に枯れ枝が多く、どぶづるの発生が少ない（表3）。

[成果の活用面・留意点]

- ① 強樹勢のブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹で活用できる。

[具体的データ]

表1 1果(花)房当りの葉数と果粒形質との関係

満開期の1果(花) 房当り葉数 (枚)	1房重 (g)	1粒重 (g)	果皮色 ²	糖度	酸含量 (g/100mL)
5	186.3	9.7	4.1	16.1	0.25
8	215.9	11.3	8.8	18.4	0.28
12	215.0	11.5	9.5	19.8	0.26
16	225.2	12.1	9.5	19.8	0.29
20	220.7	11.0	9.0	19.1	0.30

² 果皮色は黒色ブドウのカラーチャートによる

表2 1果(花)房当りの葉数と1樹当たりの時期別収穫房数

1果(花)房当り葉数	収穫時期(月.日)							合計
	8.27	9.1	9.4	9.8	9.11	9.16	9.22	
5	0	0	0	51	53	104	1,021	1,229
8	25	53	84	126	161	145	0	604
12	94	126	59	31	20	2	0	332
16	209	63	22	7	0	0	0	301
20	92	110	41	10	7	0	0	260

表3 1果(花)房当り各葉数区の1樹当たりのどぶづる発生量と枯れ枝発生量

1果(花)房当り葉数 (枚)	どぶづる発生量 (kg)	枯れ枝発生量 (kg)
5	0.0 ²	32.7
8	0.0	12.4
12	0.5	4.8
16	1.5	0.6
20	5.4	0.2

[その他]

研究課題名:ブドウウイルス無毒樹の栽培技術の確立

予算区分:県単

研究期間:平成9年度(平成7年~11年)

研究担当者:森田 昭・林田誠剛

既発表論文等:なし